# 太陽 SUN

東広島市立原小学校
第３学年 学級通信
令和５年　11 月６日

## 道徳「いただいた命」を学習して

11 月１日（水）の道徳の時間に，命の大切さについて考えました。「いただいたいのち」のお話は，主人公のゆきさんが血液のがんになってしまい，お母さんやクラスの友達の励ましを受けたり，周りの人から血液を提供してもらったりしながら苦しい治療をがんばり，１０か月後，元気に学校に行けるようになったというお話です。授業では，お母さんが元気になれたゆきさんに言った言葉「いただいたいのち」とはどういう意味なのだろうと考えました。

子ども達からは，

・「支えてくれたいろいろな人に感謝して言ったのだと思う。」
・「ゆきさんも治療を頑張ったけど，病院の人や献血してくれた人のおかげでもある。」
・「学校の先生や友だちもはげましてくれたから，元気になれた。」
　など，多くの人の支えや励ましがあって生かされている命について考えました。

授業の終わりには，自分が病気やけがをして心配してくれたり，病院で治療してもらったりした経験を交流しました。「命は１つ」「命は大切」と，頭では分かっていても，ふだんは命のことを意識していないかもしれませんが，心明るく，元気に毎日を過ごせているのは，いろいろな人の支えがあることを折にふれて話していきたいと思います。